

史書長殿

昭和二十四年五月十四日

第二役員局總務處總務資料課長

吉田 英三

聯合國總司令部軍事情報課

Lt. Col. S.H. Case 殿

德日本海軍作戦資料提出の件（第六回）

一九四九年三月十七日貴殿から口頭を以て提出を命ぜられた首題資料中次
○ものが完成したから提出する。

追って、要提出部数各一〇冊の中各一冊を添え一九四八年十二月十九日附

○ Gen. Mil. Intel. Sec. G-2 總務に添くものとして OIGO から公式提出
○こととする。

三貴殿に提出の一〇種類各一〇冊の中各一冊を右と同様に提出し
たから申添える。

日本 政府

S.I.D./H.S. No. 6
 分類 No.

分類 No.	題名	冊数	予定完成期
三九	其の一	九	・
三八	南東方面航空型作戦経過の概要 其の一	九	・
三七	終戦前の作戦状況並に作戦	九	五月十五日
三六	終戦後の作戦経過並に作戦	九	六月十五日

日 本 政 府

0362

14 May 1949.

To: Lt-Colonel S.M. Cass, Military Intelligence Section,
G-2, GHQ, SCAP.

Subject: Submission of Data of Operations of the Defunct Japanese Navy. (6th time).

Among the subject data as above which you orally requested me on 17 March 1949 to submit, the following data have been completed and are herewith submitted to you:

No. according to SLD/RE No. 6	Title	No. of copies	Estimated date of completion
37	Operations in the ...	9	May 15
37	Outline of Operations before End of War and Termination of Hostilities.	9	May 15
38	Outline of Progress of Air Operations in South-Eastern Area. Part 1.	9	ditto.
39	Ditto, Part 2.	9	ditto.

(1) Each one of the ten copies each of the above data shall be formally submitted to you through G.L.C.O. as the report to the memorandum of Gen. Mil. Intell. Sec., G-2 dated 19 Dec. 1948.

(2) It is added here that each one of the ten copies each of the ten data already submitted to you has been dealt with in the same way as above.

Hidemi Yoshida,
Chief, Historical Records Section,
2nd Demobilization Bureau
Liquidation Division.

0363

史実班長殿
復二第一二三三號

昭和二十四年五月十四日

引揚援護廳復員局
第二復員局殘務處理部長

連絡調整中央事務局次長 殿

舊海軍の作戦記録提出の件（第二回）

一九四五年十二月十九日附 Special Message Intelligence Section, G-2
覺書に基く首題資料中別表に記載した四種類が別冊の通り完成したから
Japanese Liaison Section, G-1, 2 宛提出方取計われたい。
追て要提出部數各一〇冊の中各九冊は當部から G2 に直送したから申添
える。

（別表及別冊添）

（終）

0364

(別表)

假番號	表題	備考
三九	南東方面航空作戰經過の概要 其の一 Part TWO	"
三八	南東方面航空作戰經過の概要 其の一 Outline of Progress of Air Operations in South-Eastern Area, Part One.	"
三七	終戦前の作戦概況並に停戦 Outline of Operations before End of War, and Termination of Hostilities.	新規に提出のもの
三六	一九四五年に於ける南東方面の作戦 Operations in Borneo Area in 1945	直接提出済と誤認してはならぬもの

記事 要提出部數各一〇冊の中各九冊は第二復員局殘務處理部から
G2に直送する

史実班長殿
復二第一一二六號

昭和二十四年五月十日

引揚二後護國復員司務處理部長

連絡調査中央事務局次長殿

舊海軍の作戦記録提出の件

一九四五年十二月十九日附 General Military Intelligence Section, G-2 覚書
に基く首題の件に關し別表に記載した十種級の資料が別冊の通り完成し
たから Japanese Mission Section, G-2 宛提出方取計はれたい。
追つて之等作戦記録の提出事務は從來稍不明瞭に流れた關係もあり、
左記事項御審み置きの上可然取計はれたい。

記

この資料は来る七月末日頃迄に逐次提出を豫定して居る相當歴大以上
る海軍作戦記録の一部である。而して本件は去る三月十七日〇一〇

Historical Branch, Lt. Col. S.M. Casserly ^{日本} 直の作戦記録としてまとまつ

たものは左記のと米提団たるを尚はす宛めて復讐の上各十部宛
を提出すべき旨の口頭指令を受けたことと起因する。

二 提出資料の全貌は言は一部分米提団のものかあるか今日迄は伺との

直接連絡の面米に及び一應四十三個類と認定して居る。

三 各資料の添付部以十部中九部は其の即支富部から Historical Branch

Branch 宛に届とすることとし、其前を通じての公式提出には一部の

みを添附し取敢事分の簡易化を願ひたい。

四 捕獲中の敵電報機は復讐作業並に提出手順上まると復讐打合を了した番

號であるから提出に際して適用を願ひたい。

五 其同用としての電報機は別に与致しなれたいことと申したいから承され

たい。

(捕獲及捕獲添)

(終)

別表

収番號	表	記
一	北方方面の作戦 (Northern Area Operations)	
二	沖繩方面の作戦 (Okinawa Area Operations)	用紙出たは分の
三	機動部隊の作戦 (Task Force Operation)	
四	南方部隊の作戦全般經過 (General Progress of Operations of Southern Force)	
五	馬來大戦作戦 (Malaya IN Invasion Operations)	
一七	東南方面作戦 (四一九四二一月至一九四四一月) (Southeast Area Operations (From April 42 to April 44))	
一八	西太平洋、ニューギニア及び北方面作戦 (Western New Guinea & North of Australia Area Operations)	
二五	本土上陸作戦の準備 (Operational Preparation for Counter Attack against Enemy's Landing on Japan Proper.)	

二六	封 牒 年 報	
西〇	剛東方回航空作戦経過の概要 其の三 (Outline of Progress of Air Operations in Southeast Area)	全く新視作襲提出 の分である。
備 考	(イ) 本表の一〇頃の資料は一編 Lt. Col. Cass 宛提出したもの みであるか今改めての公式提出の手続を進めるものである。 (ロ) 要提出部は各一〇部であるが各九部はわ二便員事務庭理 部から送るに直送する。 (ハ) 記号と題目の分は正式提出の手続を行はなかつたに拘らず直接 提出済と誤認してしまつたものである。	

0369



二〇〇五〇〇

昭和二十三年六月二十五日

引揚部 陸軍省 復員局

第一編 復員局 陸軍省 復員局

陸軍省 中央復員局 第三編 復員局

既提出海軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省



Military Research Sub-section Gen. Mil. Intel. Serv. G-2

陸軍省 中央復員局 第三編 復員局

一九四五年十二月十九日
陸軍省 中央復員局 第三編 復員局
陸軍省 中央復員局 第三編 復員局
陸軍省 中央復員局 第三編 復員局

○ 陸軍省 中央復員局 第三編 復員局

○ 陸軍省 中央復員局 第三編 復員局

○ 陸軍省 中央復員局 第三編 復員局

日本 政府

- 南洋南洋印度支那作戦
- 「スマトラ」及南洋方面各地の治安取崩作戦
- 「ビルマ」「マニラ」「フィリピン」夜襲作戦
- 日本領土の防衛作戦
- 潜水艦作戦
- 「ミッドウェイ」作戦
- 「マリアナ」「レイテ」攻勢作戦
- 北方方面の作戦
- 南西太平洋方面の作戦
- 「ホーランド」作戦
- 比島方面作戦
- 「ボルネオ」方面作戦
- 硫黄島作戦
- 日本本土上陸に對する反撃作戦準備
- 朝鮮作戦

○日海作戦

(終)

日本 政府

大東亞局長殿 (8)

昭和二十四年四月十九日

第二復員局總務處理部資料課長

吉田 英三

聯合國總司令部軍事情報課

Lt. Col. S.M. Cross 殿

舊日本海軍作戰資料提出の件 (第三回)

一九四九年三月十七日貴殿から口頭を以て提出を命ぜられた首題資料中次
 のものが完成したから提出する。

追て本資料の完成予定期日は *SHD/REMO. No.* の作業計畫に於て七月三十一日
 と報告したものであるが貴課の絶大なる作業援助により斯くも早期に完
 成した次第であるから申添える。

<i>SHD/REMO. No.</i> 依る <i>No.</i>	題名	提出部数
一七	南西方面の作戰 (自一九四二年四月 至一九四四年四月)	一〇
二六	對蘇作戰	一〇

(終)

日本政府

19 April 1949.

To: Lt-Colonel S.M. Case, G-3, GHQ, SCAP.
Subject: Submission of Data of Operations of the Defunct
Japanese Navy. (3rd Report)

Among the subject data as above which you requested me orally on 17 March 1949 to submit, the data below are hereby submitted to you, as they have been completed.

Incidentally we would like to add here that although the estimated date of completion of these data was previously reported to be 31 July through SLD/NS No. 6, they have been completed so early thanks to the enormous assistance of your Section rendered us.

No. according to SLD/NS No. 6	Title	Copies submitted.
17	Operations in South- Western Area (From Apr. 1942 to Apr. 1944).	10
25	Operations against Soviet	10

Hidemi Yoshida,
Chief of Historical Records
Section, End Demobilization
Bureau Liquidation Division.

0373

史実部長殿

第二第一一〇八号

昭和二十三年四月二十二日

引揚海軍總務員司第二復員司兼海軍處理部長

連絡調整中央事務局次長殿

南東方面海軍作戦記録其の一正誤の件提出

昭和二十三年四月六日附二復員第二五〇號で提出した首編作戦記録中訂正すべき箇所が認められたので、誤訂正を補綴を提出する。

(別紙添)

(終)

日 本 政 府

0374

別紙

第二復員局調整「南東方面の作戦其の一」の訂正

頁行

原

文

改

正

文

15	10	10	9	9	9	8
10	15	10	6	5	3	14

ガ島飛行場は六月中旬より
 ラバウルより發進する哨戒
 ガ島には第十一及第十三設營隊
 の外若干の警戒兵力があつたのみで
 進出し南東方面に於ける
 山本大將は聯合艦隊
 マタニカウ河西方

ガ島飛行場は七月上旬より
 ラバウル及ツラギより發進する哨戒
 ガ島にはルンガ方面に第十一及第十三設
 營隊
 約一六〇〇名の外若干の警戒兵力約二五
 〇名があつたのみで
 進出し聯合艦隊命令によつて南東方面に
 於ける
 山本大將は事能を重視し聯合艦隊
 テナル河西方

日 本 政 府

0375

史
料

2 April 1949

FO : Lt. Col. S.M. Case, G2, GHQ, Scap.

Subject: 舊日本海軍作戦資料調製に關する月頭報告の件

首題の件概略次の通である。

一、作業完了の分

既定計畫に於て三月分としての資料即ち

№. 1 北方方面の作戦

№. 2 沖縄方面の作戦

は予定通り三月三十一日複製完了し昨四月一日各十部宛賞殿に提出した。

二、作業進行中の分

三月三十一日現在に於ける進捗状況左の通

(a) 四月分として予定した資料即ち

№. 3 機動部隊の作戦 (一〇六頁)

日
本
政
府

0376

№ 0. 4 南方部隊の作戦全般経過に比島攻略作戦に於ける日本海軍の作戦状況 (四五頁)
№ 0. 5 馬來攻略作戦 (六三頁)

中 № 0. 5 及 № 0. 6 は約二分の一、№ 0. 4 は約三分の一程度を既に *Typing* を終了し夫々謄寫を開始して居るから順調をれば四月末より若干早く作製完了することを期待して居る。

(b) 五月分として予定した資料の一部即ち

No. 9. Burma and Andaman Operations

No. 10. Sumatra Aggressive Operations and each cleaning-up Operations in South Western Areas

(52 Pages)

No. 11. Submarine Operations

(11 Pages)

等も二―三日前から *Typing* を開始したから近日中に之を終了するであらう。

(註) *Typing* 終了後の謄寫、圖表類の作製、挿入、製本等に就ても尙相當の作業量を伴ふ次第である。

三、第一復員局へ作業依託の分

三月下旬に於て數次に亘つて行はれた一復に對する協議に於て約一、七〇〇頁の作業を依託することに決定した。

其の内五月末日作業完了予定の分としての資料即ち

No. 34 (舊No. 26) 第三段作戰経過概要 (56 Pages)

No. 35 (舊No. 27) 通信作戰史 (650 Pages)

計六八六頁は既に原稿を Mr. Hattori に送致済である。更に六月分として約五四〇頁、七月分として約四七〇頁を依託することに約束済であつて逐次原稿及用紙を引渡すことに準備中である。其の詳細計畫は STD/HS No. 6 を以て近日中に報告を進めると致したい。

Hidemi Yoshida
Chief of Historical Records Section
2nd Demobilization Bureau
Liquidation Division.

二復連第二五〇號

昭和二十三年四月六日

連絡調整中央事務局次長殿

第二復員司業務處理部連絡課長

南東方面海軍作成記録の件提出

Military Research Sub-Section Gen. Mil. Intel. SRC. 九四五年十二月十九日附のメモランダム（番號なし）によつて左の記録を^{C-2}作製したから C-2 Historical Section 宛提出片取計を得たい

記

南東方面海軍作成 其の一 其の二 其の三

尙此の種記録は先方の希望により従來は直送してゐたのであるが今般賣局を通じて提出する様甲出があつたので爾今賣局に提出するから可然御取計を俾度從來直送の分は別に項目表のみを賣局に通知するから了願されたい

（別紙日本文一添）

（終）

日本政府

0379

第一復連第三六四號

昭和二十三年五月十八日

第二復員司殘務處理部連絡課長

連絡調整中央争務司次長殿

沖繩方面海軍作成記録の件提出の件

Military Research Sub-Section. Gen. Mil. Intel. SRC. G-2 一凡四五年十二月十九日附
メモランダム(番號なし)によつて左の記録を作製したから G-2 Historical
Section 宛提出方取計われたり。

記

沖繩方面海軍作成 (一部)

(別冊 日本文一添)

(終)

日本政府

第一〇〇〇〇〇〇〇

二 復讐部隊の編成

昭和二十三年六月二十五日

引揚揚陸隊復興局
第一復讐隊司令官 藤原 運 總隊長

運送隊 中央事務局長 三 藤原 運 總隊長

運送隊 海軍作戦課長の件 通知

Military Research Sub-Section Gen. Hist. Intel. Serv. C-2

一九四五年十二月十九日

附ノモランダム（巻頭なし）によつて

に 既 出 の 海

軍作戦課長（陸二復讐第二五〇隊及同第三六四隊）は左の通りであるから
願 望 さ れ たい。

記

○ 陸軍部 復讐の作戦

○ 比島 攻戦作戦

○ 馬家 攻戦作戦

日 本 政 府

- 蘭領東印度攻陥作戦
- 「スマトラ」及東南方面各地の攻陥作戦
- 「ビルマ」「アングマン」攻陥作戦
- 日本國土の防衛作戦
- 清水整作戦
- 「ミッドウエイ」作戦
- 「マリアニシヤン」攻陥作戦
- 北方方面の作戦
- 南西太平洋方面の作戦
- 「あし」作戦
- 比島方面作戦
- 「ボルネオ」方面作戦
- 硫黄島作戦
- 日本を土上陸に對する反撃作戦準備
- 對露作戦

(終)

日
本
政
府

復二第一〇四七號

昭和二十三年十二月十六日

連絡調整中大事務局次長殿

引援護廳復員局
第二復員局殘務處理部長

既提出海軍作戦記に對する訂正事項の件送付

Military Research Sub-Section Gen. Mil. Intel. SRC. G-2

一九四五年十二月

十九日附覺書(番號なし)によつて G-2. Historical Section

に既提出の海

軍作戦記録(昭和二十三年六月二十五日二復連第四五〇號で通知)中、左記の訂正事項を發見したから、連合軍當局へ提出方取計はいたい。

記

一、別紙第一「ボルネオ方面作戦」の訂正

二、別紙第二「フィリッピン海軍作戦第一卷」の訂正

日 本 政 府

三、別紙第三「西部ニューギニヤ方面及び濠北方面の作戦」の訂正

(別紙第一、第二、第三 添)

(終)

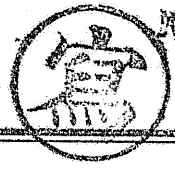
日
本
政
府

0384

史実調査部

二復資第一七四號

昭和二十四年五月十日



第二復員局勤務處總務課課長殿

第二復員局勤務處總務課課長

戦史複製作業の一部を文化史料調査會
に委託の件照會

貴局からの指令による日本海軍の戦史複製作業の一部を別紙により文化史料調査會に委託したいから然るべく取計いを得たい。

(別紙)

(終)

日本政府

戦史複製作業の一部を文化史料調査會に委託について

一、委託する作業の説明

G2の指令による日本海軍の戦史複製作業の一部を委託するものであつて細次の通り

(イ)第一期委託作業(戦史作製) 完成期六周末日

(一) 附録(青寫眞)作製

戦史の原稿に挿入されているトレンシングペーパーの附録(艦隊の合戦圖類)八〇枚を各二五枚宛計二、〇〇〇枚の青燒を作る

(二) 製本

二復でタイプ謄寫刷とする戦史三九種各二五册計九七五册を謄寫刷出來の部成これに(一)項の青寫眞附表を挿入し厚紙の表紙を附して製本する

(ロ)第二期委託作業(戦史第一圖表作製) 完成期七周末日

(一) 圖表のトレス及青寫眞作製

現圖七種一八七枚をトレスの上名二五枚宛計四、六七五枚の青焼を
作る

(一) 製本

(一) 項の青焼圖表七種及タイプ、謄寫刷濟（二復て作る）の圖表五種計
一二種を各二五冊計三〇〇冊製本する

(二) 第三期委託作業（戦史第二圖表作製） 完成期十月末日

(一) 圖表のトレス及青寫眞作製

現圖六種一三〇枚をトレスの上各一五枚計一、九五〇枚の青焼を作
る

(二) (一) 項の青焼圖表六種を各一五冊計九〇冊製本する

三、文化史料調査會に委託せんとする理由

(一) 戦史複製作業は前述の通り²²の指令に基くものであつてその性質上作
業内容を民間に知られることは勿論部内に於ても必要以外に漏洩した
場合機微な問題の發生する虞が多分にある
この點について文化史料調査會はその設立趣意、爾後に於ける當部と

一の關聯性にも鑑み本作業の注文先として最も適當である

(四)複製に使用する原稿は日本の戦史研究上貴重な資料であるに拘らず現在二復に於て各種一冊分を保存してあるのみでその散失を完全に防止しなればならぬ。この點からしても營利を主目的としないうも青寫眞、印刷、製本の一貫作業施設を有する文化史料調査會をして責任を以て委託せしめることが適切と認められる

(五)原稿の各種圖表は極めて複雑多岐でありその複寫には専門的な知識を必要とする爲作業の途上に於て屢々質疑の應答を要し又状況によつては補正の必要も生ずることが予想される

而して之等圖表の原稿を複製した諸氏の大部が史料調査會のメンバーに含まれてゐる關係上同會に委託することが最も便利且つ適當であるばかりでなく同會以外に斯の種作業の協調を實施を引受け得ると認められる業者を見出すことは現在の所至難である

三、所要見込予算

區分	金額	額	完成	期
第一期委託作業	三一、二一五	圓		六月末日
第二期委託作業	一〇二、六三〇			七月末日
第三期委託作業	六七、二三〇			十月末日
計	二〇一、〇七五			

(終)

日
本
政
府

昭和二十四年五月二十五日

資料課長殿

史實班長

G.H.Q.に提出する作戦史の表題中一部適當でないものがあるので左の通り改正したいから可然取計はれ度い

番號	作戦史表題	改正表題
七	潜水艦作戦(自一九四二―四四―一四)	第一段作戦に於ける潜水艦作戦
一九	潜水艦作戦(自一九四二―四四―一三) 其の一	第二段作戦に於ける潜水艦作戦 其の一
二〇	・ 其の二	・ 其の二
三一	比島方面に於ける潜水艦作戦	第三段作戦に於ける比島方面の潜水艦作戦
五三	潜水艦作戦(第三段)	第三段作戦に於ける潜水艦作戦

昭和二十四年六月二日

資料課長殿

史實班長

六月一日カーネル・ケリスより要求のあつた指定作戦史の記事内容は左記の期間中に於けるものであるから然るべく處理を得度い

記

番號	作戦史名	作戦期間
二二	南東方面作戦 其の三	自一九四三―二―月中旬至一九四三―〇―上旬
三四	第三段作戦の経過の概要	自一九四三―二―月中旬至一九四五―八―一四
三六	第五航空艦隊の作戦記録	自一九四五―二―一〇至一九四五―八―一九
四二	本土防衛作戦 其の三	自開戦 至一九四五―八―一〇對空襲作戦
六	蘭領東印度攻略作戦	自一九四二―一―上旬 至一九四二―三―上旬

日本政官

七	潜水艦作戦 (自一九四二―四一―二 至一九四二―一―四)	自一九四一―二―一上旬至一九四二―一―四上旬
八	硫黄島作戦	自一九四四―一―六―中旬至一九四五―一―三―下旬
九	ビルマ、アンダマン攻略作戦	自一九四二―一―三―中旬至一九四二―一―四―下旬
一〇	スマトラ攻略及南西方面各地の戦 定作戦	自一九四二―一―一―上旬至一九四二―一―五―下旬
三二	一九四五年に於けるボルネオ方面 の作戦	自一九四五―一―一―上旬至一九四五―一―八―一―四

史実班長殿

復寫戦史の全部に作戦時期を記入についての覺（三四、六、二）

Col. Case

宛第七回提出のとき同官から指示のあつた首題の件は左の通り處

理する。

一 今後提出する分は全部記入する。

一 五月三十一日附提出の分。(Col. Case 宛第七回、正式提出第三回)

(イ) 正式提出の分は記入して提出する。(提出日附を改める)

(ロ) Col. Case 宛の分は時期の文字をタイプした貼付用紙を準備する。

(ハ) 保管用は全部記入する。

一 既提出の分は改めて指示のない限りこの態とする。

一 作戦時期の表示は年、月のみとする。(日及旬は記入しない)

(終)

史実班長殿

便二第一一四四號

昭和二十四年六月三日

引揚援護員局復員局
第二復員局機務處理部長

外務省連絡局長殿

舊海軍の作戦記録提出の件（第三回）

一九四五年十二月十九日附 Gen. III, Intel. Sec., G-2 覚書に基く首

題資料中別表に記載した十種類が別冊の通り完成したから Japanese

Material Section, G-2 宛提出方取計われたい。

追て要提出部数各一〇冊の中各九冊は當部から G2 に直送したから甲添え
る。

（別表及別冊添）

（終）

別表

假番號	表	題	備考
六	蘭領東印度攻略作戰 (自一九四二年一月) Netherlands East Indies Aggressive Operations (From Jan. '42 to Mar. '42)	再提出のもの	
七	潜水艦作戰 (自一九四二年四月) Submarine Operations (From Dec. '41 to Apr. '42)		
八	硫黄島作戰 (自一九四四年三月) Iwojima Operations (From Jun. '44 to Mar. '45)		
九	ビルマ、アンダマン攻略作戰 (自一九四二年三月) Burma and Andaman Aggressive Operations (From Mar. '42 to Apr. '42)	提出済と誤認していたもの	
一〇	スマトウ攻略及南西方面各地の掃蕩作戰 (自一九四二年五月) Sumatra Aggressive Operations and Beach Clearing Operations in South-Western Areas (From Jan. '42 to May '42)		

二二	南東方面作戦 其の三 (自一九四三年二月) 至一九四三年十月) Operations in South-Eastern Areas, Part Three (From Feb. '43 to Oct. '43)	再提出のもの
三二	一九四五年に於けるボルネオ方面の作戦 (自一九四五年二月) 至一九四五年八月) Operations in Borneo Area in 1945 (From Feb. '45 to Aug. '45)	提出済と誤認していたもの
三四	第三段作戦経過の概要 (自一九四三年二月) 至一九四五年八月) Outline of Progress of 3rd Phase Operations (From Feb. '43 to Aug. '45)	新規提出のもの
三六	第五航空艦隊の作戦記録 (自一九四五年八月) 至一九四五年八月) Operation Records of 5th Air Fleet (From Feb. '45 to Aug. '45)	
四一	本土防衛作戦 其の三 (自一九四一年十二月) 至一九四五年八月) Defensive Operations of Japan Proper Part Three (From Dec. '41 to Aug. '45)	

記事 要提出部数各一〇冊の中各九冊は第一復員局残務處理部から
に直送する。

(終)

To : Lt. Col. S.H. Case, C-2. C.H.Q. Soep.

Subject: . . .

作戦史の確度に関する件

首題の件別紙の通報告する

30 APRIL 1949

Yoshimori Terai
Historical Record Section
And Demobilization Bureau
Liquidation Division.

0397

四月二十七日午前、千早氏を介し、貴官より調査要求のあつた作戦史

(SLD / H.S. No.6 に依る作戦史番號中 1 2 3 4 6 8 12 15 16 18 24 25 27 28 29 30 31 32 33 36)

の各章毎の確度調査に關しては記録擔任者が解任不在の爲に一部正鵠を期し難いものがあるが史實班に於て差り確度を推定した處は別表の通である
(註)

確度は左の標準に依つて示してある

- 甲 記録の大部が正確の資料を其の儘引用轉記したもの
- 乙 断片的な當時の作戦記録、電報寫、作戦當時の私記等を綜合して作製したもの
- 丙 記録なく已むを得ず作戦當事者の戦後私記或は記憶を骨幹として作製したもの

二
三
上
事
務
官
殿

二復査第一〇四號

昭和二十四年四月五日

第二復員局總務處和部資料課

高野事務官

復員局資料整理部

高橋事務官殿

今次の戦史複寫依頼については御多忙中種々と御迷惑をかけることと存じ
ますが何分よろしく御願ひ申上げます。
就いては左の件御取計い並びに御了知を待たい。

記

一、既送付の原稿中「通信作戦史」の目次から左を削除する（理由 現在原
稿なし、近い將來も起草の見込なきに付）

（第三編の）第二章 人的戦備

第四編 實驗研究

日 本 政 府

二 既送付の原簿用簿籍原紙四〇〇枚（算出基礎次の通り）御査収ありたい

400 = 56^頁 + 630^頁 = 686^頁 ÷ 2 = 343^頁 × 1.1 = 377
(半葉) (全葉) (一割加算)

三 前送の用紙一〇、〇〇〇枚の算出基礎次の通り

10,000 = 56^頁 + 630^頁 = 686^頁 ÷ 2 = 343^頁 × 25 = 8,575 × 1.1 = 9,432
(半葉) (全葉) (部数) (全葉) (一割加算)

(終)

日 本 政 府

GHQ 提出圖表一覽表

二四一四一二二

史實班

番號	表題	大小(平方糎)	頁數
一	飛行機搭載艦編制表及飛行機定數表	$\frac{1}{2}$	二五
二	航空部隊編成表及飛行機定數表 (内戰部隊)	$\frac{1}{2}$	二二
三	" (外戰部隊)	$\frac{1}{2}$	五二
四	GEB、OSH、關係編制線圖	$\frac{4}{4}$ (40×50)	八
五	AH	"	一〇
六	KF、GKF、NTH	"	一〇
七	GF↓9F	"	二〇
八	各鎮營口、學校、海兵團、名簿	"	一一
九	航空關係名簿並編成表	"	二一
一〇	艦船部隊指揮官一覽表	"	二三
一一	特設艦船部隊	"	二八

八本
新編圖

海軍

海軍

	〇	△	▽	〇	〇
	一七	一六	一五	一四	一三
總計	航空隊編成推移一覽表	雜表	潜水部隊、戦時編成並に改編	潜水艦喪失一覽表	潜水部隊指揮官一覽表、潜水艦長一覽表
					護衛艦及船舶被害一覽表
	〃	$\frac{4}{4}$	〃	〃	$\frac{3}{4}$
					$\frac{1}{2}$
四三一	二五	四〇	三四	六	八九
			不	不	

〇三六